

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	流体工学		
英文授業科目名	Fluids Engineering		
開講年度	2004年度	開講年次	3年次
開講学期	5学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-専門共通科目-選択科目		
開講学科・専攻	知能機械工学科		
担当教官名	坪倉 誠		
居室	東4-831		

公開E-Mail	授業関連Webページ
tsubo@mce.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
「飛行機はなぜ飛ぶか」を主題として、翼回りの簡単な流れを解析するためのポテンシャル理論について学ぶ。また、実際の翼の実験計測を通してこの理論の限界を説明し、翼や胴体に働く流体抵抗を理解するために境界層理論について学ぶ。

【前もって履修しておくべき科目】
流体力学

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

【教科書等】
特になし

【授業内容とその進め方】
<p>---講義内容---</p> <p>(1) 序論</p> <p>(2) 流れ関数と速度ポテンシャル</p> <p>(3) 複素ポテンシャル</p> <p>(4) 簡単な流れの複素ポテンシャル</p> <p>(5) 等角写像</p> <p>(6) 平板翼の解析</p> <p>(7) 境界層</p>

電気通信大学 平成16年度シラバス

- (8) 層流境界層
- (9) 乱流境界層

各授業の最初に講義資料を配布し、この資料に沿って授業を進める。
従って特に教科書等は必要としない。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法：

授業中の演習・宿題と期末試験の結果を、次のように総合評価する。

成績評価 演習・宿題 40%
期末試験 60%

(b) 評価基準：

以下の到達レベルをもって最低達成基準とする。

- ・流体力学におけるポテンシャル流の位置付けを理解している。
- ・複素ポテンシャルを用いて一様流、渦糸、二重噴出し等の基礎的流れ場を表現できる。
- ・平行移動や回転等の代表的な等角写像を理解している。
- ・ダランベールのパラドックスを説明できる。
- ・境界層方程式を導出できる。
- ・境界層内の運動量保存則からカルマンの運動量積分の式を導ける。
- ・層流境界層と乱流境界層の違いを理解している。
- ・演習・宿題を60%以上提出している。

【オフィスアワー：授業相談】

特定の時間は設けないが、質問等は電子メール等で随時受け付ける。

【学生へのメッセージ】

【その他】